

JR仙台駅西口に広がるペデストリアンデッキ  
（昭和57）年に当時の国鉄東北新幹線開業で仙台駅舎がつくり直された時である。建設費用のうち75%を仙台市が、25%を国鉄が負担し、駅舎前面のメインデッキは国鉄が施工し、78（昭和53）年に一部供用を開始した。メインデッキより西側（街寄り）は仙台市が施行し、徐々に供用部分を広げ、81（昭和56）年に全体が完成した。完成から間もない頃、司馬遼太郎が仙台駅前を訪れ「街道をゆく」で絶賛している。また、国鉄と仙台市との区分を巡るやりとりも記されていて興味深い。

ペデは、建物に接続された歩行者専用の高架通路で、広場と横断歩道橋の機能を併せ持っている。仙台駅3階の幹線のホームから人の流れに沿って2階に降りると、目の前に仙台駅西口ペデが広がる。今では全国で見られる映画「アイネクライネナトムジーク」の冒頭シーンである。本編中に何度も仙台駅西口のペデストリアンデッキ（pedestrian deck）が、仙台のペデは日本最大規模で開放感がある。植栽や街灯なども設置されている。91（平成3）年に第1回目の都市景観100選に選ばれ、テ

～夜の仙台駅前。大型ピアノを望むペデストリアンデッキでは、日本人初の世界ヘビー級王座を賭けたタイトルマッチに人々が沸いていた。訳あって街頭アンケートに立つ会社員・佐藤（三浦春馬）の耳に、ふとギターの弾き語りが響く。歌に聴き入るリクルートスーツ姿の本間紗季（多部未華子）と目が合い、思い切って声をかけると、快くアンケートに答えてくれた。紗季の手には手書きで「シャンパー」の文字。思わず「シャンパー」と声に出す佐藤に紗季は微笑む――

JR仙台駅西口ペデストリアンデッキでは、日本人初の世界ヘビー級王座を賭けたタイトルマッチに人々が沸いていた。訳あって街頭アンケートに立つ会社員・佐藤（三浦春馬）の耳に、ふとギターの弾き語りが響く。歌に聴き入るリクルートスーツ姿の本間紗季（多部未華子）と目が合い、思い切って声をかけると、快くアンケートに答えてくれた。紗季の手には手書きで「シャンパー」の文字。思わず「シャンパー」と声に出す佐藤に紗季は微笑む――



## 都市景観100選に

賛している。また、国鉄と仙台市との区分を巡るやりとりも記されていて興味深い。

現在のペデは当時よりも拡充され、大部分が仙台市の所有であるが、JR駅と一体感が強く、ペデの端までが駅の一部として機能しているよう

# 活気あふれる駅前の空中広場 仙台の象徴、ペデストリアンデッキ

に感じられる。また、開口部を広げていているため、デッキ下の地上も明るい。

## ～文化的歴史的所産を巡る～ 残したい情景

### 第26回 宮城県仙台市

一般財団法人 日本不動産研究所



JR仙台駅西口に広がるペデストリアンデッキ

レビロケに頻繁に登場する。ペデが設置されたのは、82（昭和57）年に当時の国鉄東北新幹線開業で仙台駅舎がつくり直された時である。建設費用のうち75%を仙台市が、

25%を国鉄が負担し、駅舎前面のメインデッキは国鉄が施工し、78（昭和53）年に一部供用を開始した。メインデッキより西側（街寄り）は仙台市が施行し、徐々に供用部分を広げ、81（昭和56）年に全体が完成した。完成から間もない頃、司馬遼太郎が仙台駅前を訪れ「街道をゆく」で絶賛している。また、国鉄と仙台市との区分を巡るやりとりも記されていて興味深い。

JR仙台駅西口ペデストリアンデッキは、高度成長期の所産として、また東日本大震災からいち早く復興を遂げた仙台の玄関口として、活気あふれる情景がこれからも続くことを願っています。（東北支社／不動産鑑定士・濱田雄一）

維持管理費は約20億円

晴天時には開放的であるが、吹きついでのため冬は寒

く、降雪などがあると通行に難儀することもあり、バリアフリー化のためエレベーター

や屋根付きエスカレーターが順次設置されている。このほか、市はバスアーチへの階段

増設等を行っているが、いず

れも億単位の費用が掛かるよ

うである。またペデ長寿命化修繕計画では、今後30年間の維持管理費が約20億円と見積もられており、機能の拡大とコストとのバランスが検討課題となりつつある。

仙台駅前のペデは、高度経済成長期の所産として、また

東日本大震災からいち早く復興を遂げた仙台の玄関口として、活気あふれる情景がこれからも続くことを願っています。（東北支社／不動産鑑定士・濱田雄一）